

福岡県 福津市

福岡県 福津市地域包括支援センター

総面積：52.75 km²

人口：6万3,067人

65歳以上：1万7,503人

高齢化率：27.9%

(2017年12月末現在)

執筆 福津市地域包括支援センター センター長 石出昌子
(看護師・主任介護支援専門員)

福岡県福津市は、2005年に福岡県福間町と津屋崎町が合併してできた市です。福岡県北部の福岡市と北九州市の二つの政令指定都市の中間に位置しており、JR鹿児島本線と国道3号線が市内を通る立地の良さから、福岡市のベッドタウンとして発達してきました。海と山に囲まれており、農業・漁業が盛んな地域と住宅地に分かれています。

近年は、宮地嶽神社の光の道・世界遺産登録となった『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群の新原・奴山古墳群で注目されたところでもあります。

福津市地域包括支援センターは、2006年に福津市が直営で運営を開

始。2010年からは医療法人社団水光会が委託を受け、運営を行っています。地域包括支援センターの設置は市内1カ所で、市の中心部にある健康福祉総合センター「ふくとびあ」に設置されています。

職員は保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー各3名の計9名、指定介護予防支援事業所のケアマネ



世界遺産にも登録された新原・奴山古墳群



福津市地域包括支援センターの職員。総勢18名。若手からベテランまでバランスよく働いています

ジャー6名およびセンター長、事務職員が配置されています。また、地域包括内に認知症地域支援推進員が1名配置されており、総数18名で業務を行っています。

▼
相談実績を積み重ね
充実した職員体制へ

2010年に医療法人社団水光会が地域包括支援センターの委託を受けた当初は、三職種3名で業務を開始しました。当時は、住民・民生委員に地域包括の役割が十分に周知されていなかったこともあり、相談件数は少ない状態でした。

そこで民生委員と連携を取ったり、地域への出前講座・市の広報での紹介等を行った結果、年々相談件数が増加。それに伴って職員体制も強化し、2017年度は月500～800件近い相談対応を行うようになりました。

相談体制は、市内に中学校が3校あるため、9人の三職種をそれぞれ

中学校区単位で3チームに分けて配置しています。基本的には、受け持ちの中学校区の総合相談と、民生委員・福祉会など地域との関係作りを行っています。

総合相談は、相談を受け付けた職員が受付表を記載し、緊急対応以外は、三職種全員で受付表を回覧。その後、どの職種が対応するかを検討を行います。

相談が一つのチームに集中したときは、他のチーム員が応援するようにしています。市内1カ所の地域包括支援センターのメリットは、このような応援態勢を柔軟に整えられる点にあると感じています。地域格差なく相談対応できる点もメリットです。

忙しいながらも、毎日ケース報告会の時間を取り、3チームがそれぞれ情報を共有することを大事にしています。日々のケース報告では、対応した全ケースについて共有。それとは別に、困難ケースや担当者が対応に悩んでいるケース、複雑な事例、虐待事例などはホワイトボードを使用して検討を行っています。こうした日々

の話し合いは、人材育成の面でもメリットが大きいと感じています。

最近は65歳以下の相談や本人や家族に障がい者がいる家庭の相談が増えてきています。そのため、月1回、市役所福祉課（生活支援係・生活相談係・障がい福祉係）と「介護福祉連携会議」を行い、福祉課・地域包括支援センターで連携するケースの対応について検討を行っています。また、介入拒否や対応が困難な事例に対しては、関係機関（例えば、保健福祉環境事務所・警察など）と地域の人を含めた「地域ケア個別会議」(図)を行っています。

相談業務を行う中で、行政・民生委員・生活支援コーディネーター・認知症地域支援推進員など多くの機関との連携が必要になります。認知症地域支援推進員は、地域包括内に配置されているため、常に連携を取りながら業務を行うことができます。行政とは、前述の連携会議や必要時はすぐに連携を取ることができる体制にあるので、スムーズな対応につながっています。

総合事業を契機に
自立支援型介護を推進